

経営比較分析表（令和6年度決算）

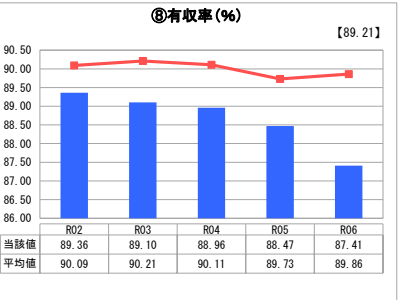
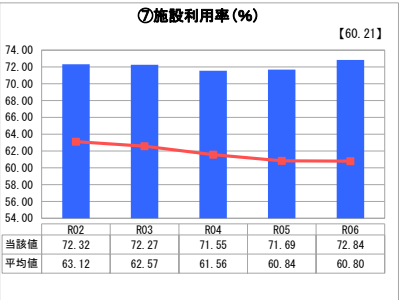
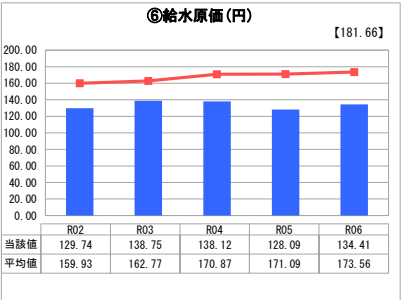
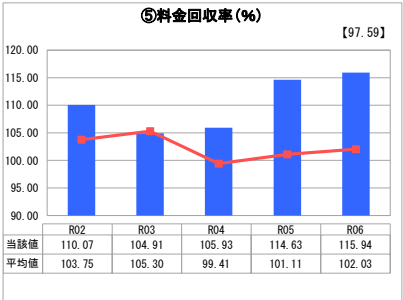
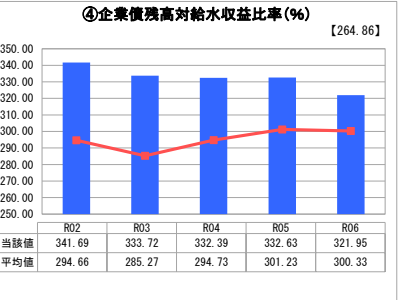
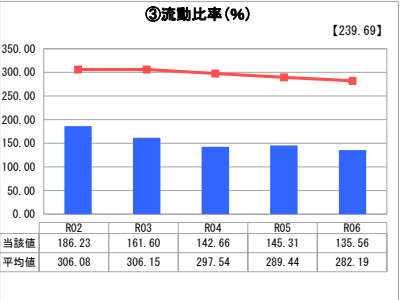
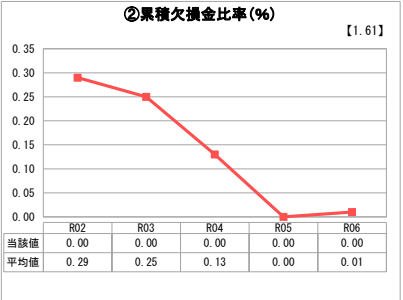
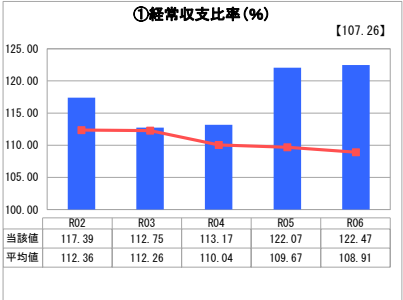
群馬県 伊勢崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡あたり家賃料(円)	
-	62.60	99.84	2,871	

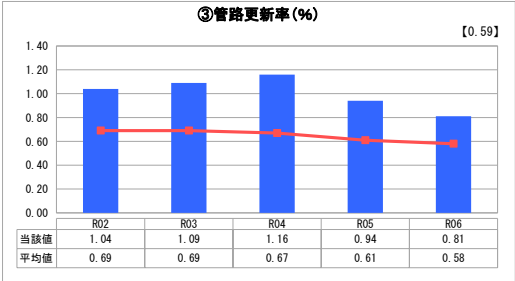
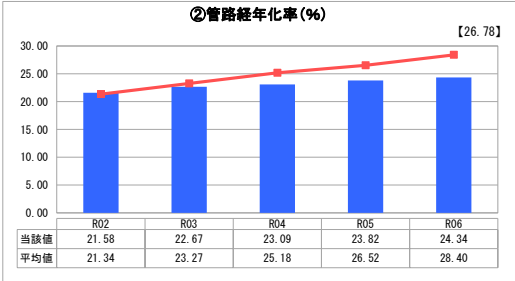
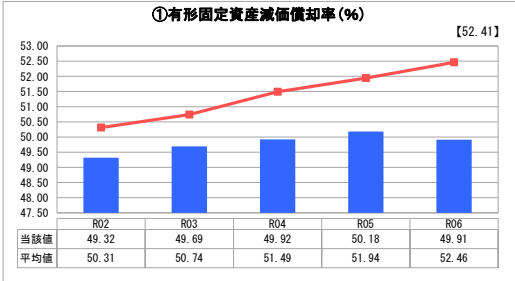
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
212,084	139.44	1,520.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
210,892	133.66	1,577.82

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

(1) 各指標と現状の分析

①経常収支比率及び料金回収率は、令和2年度、令和6年度に水道料金を改定したことで給水収益が増加した。令和6年度では、受水費等の費用が増加したものの給水収益が増加したことで経常収支比率・料金回収率ともに増加し、類似団体平均値を上回り良好である。

③流動比率は、工事費に係る未払金（流動負債）が増加したことにより減少している。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値より高いものの、給水収益が増加したことで減少している。

⑥給水原価は、有収水量が増加したものの費用も増加したことにより増加している。

⑦施設利用率は、ほぼ横ばいではあるが、類似団体平均値より高く推移しており効率的な施設利用状況にあるといえる。

⑧有収率は、漏水等の不明水の増加により減少し類似団体平均値を下回っており、AI等を活用した管路の漏水調査を行うことで早期発見に努め、無効水の減少を図っていく必要がある。

(2) 課題に対する今後の取組等

老朽化した施設等の更新や耐震化を進めていく必要があり、物価高騰等による建設投資の増加が見込まれる中、伊勢崎市水道事業経営戦略（伊勢崎市水道事業ビジョン）を令和7年度から令和8年度にかけて改定を行う中で、今後の給水収益や建設投資額を見直し、経営基盤の強化をより一層図っていく。

2. 老朽化の状況について

(1) 各指標と現状の分析

①有形固定資産減価償却率は施設の更新に伴い減少した。②管路経年比率は、類似団体平均値と同様に増加傾向にあるが、施設等の更新等により老朽化の進行速度は、類似団体平均よりも緩やかである。

③管路更新率は、前年より下降したものの、類似団体平均値を上回っている状況にある。物価高騰等及び、有形固定資産減価償却率及び管路経年比率の状況からも、管路等の老朽化施設の更新による建設投資の増加が見込まれている。

(2) 課題に対する今後の取組等

効率的な施設更新を実施し、災害に強いライフラインの構築を着実に進めていく必要がある。令和6年4月に水道料金の値上げ改定を行い自己資金残高の確保を図った。今後も効率的で計画的な更新を進めていく。

全体総括

(1) 各指標と現状の分析

増加する経年化管路とその更新に伴う建設投資の増加が主な課題である。

(2) 課題に対する今後の取組等

営業収入の大半を占める水道料金収入は、令和2年4月に水道料金を改定し、減少傾向にあった給水収益が増加したものの、節水機器の普及などから水需要の増加を見込むことが難しい状況にある。令和6年4月に水道料金を上げる改定を行った。

また、伊勢崎市水道事業経営戦略（伊勢崎市水道事業ビジョン）を令和7年度から令和8年度にかけて改定を行う中で、今後の給水収益や老朽化した施設等の更新や耐震化に要する建設投資額を見直し、経営基盤の強化をより一層図っていく。